

## 管理者のミスを「ミス」として、 全社員に明らかにせよ！

10月3日（土）名古屋車両所において、「新幹線のお仕事を学ぼう（旅行会社の商品）」と題したイベントが開催されました。まだ10月24日、11月14日、21日と開催されます。

イベントが開催された3日の保守班日勤者に対して現場管理者からは、イベントの開催に伴う作業変更等の説明は始業点呼時にも、点呼終了後に現場詰所に戻っても、一切ありませんでした。以下が、イベント当日にB検修当直助役とA社員の主なやり取りです。

A社員：今日の午後から、庫入庫の回送列車4本に分かれて（計320名）のイベント客が名古屋車両所に入って来ると噂話で聞いている。通常作業でいいのか。

A社員：現在、庫1番線にドクターイエローが留置されている。通常作業では、庫1・2番線のデッキ使用しているが、1号車まで「乗継通告券」を取りに行ってもいいのか。日報を確認すると、構内操縦者は通常の作業内容と著しく変更されているが休憩時間帯はどうするのか。

A社員：たとえば、混み合ったデッキでイベント客と接触したり、ドア扱いでドアに挟んだりさせる恐れなどのトラブルを発生させないためにも、確実な作業ダイヤ、作業内容を説明して欲しい。

A社員：イベントは、あと3回行われる。イベント当日の勤務者に作業内容を早急に説明をするようにと、要望しました。

B助役：実は、私のはっきりしたことは知らない。後ほど検修技術の担当者に聞き、説明させます。

というやり取りで、その後作業手順がホワイトボードに簡単に書かれてありました。

## 分会は地本を通じて、会社に申し入れを行った！

分会は、地方本部を通じて関西支社に対して申し入れを行いました。①10月3日のイベント開催に伴う作業変更の説明が無い。②今後もイベントは開催される。保守班日勤者に対して現場管理者は早急に作業内容を周知徹底するように要求しました。

しかし、関西支社からの回答は、「当日にお客様の怪我等のトラブルは聞いていない」「すでにイベント日の作業内容を保守班日勤者に説明し徹底している」という内容でした。組合員が管理者に説明を求めたことにより作業内容が明らかになりましたが、結果において関西支社は、現場の作業者にトラブルが生じた場合は責任を転嫁するような対応でした。

**皆さんも、おかしいことはおかしいと声を出し、明るい職場を共に作って行きましょう！！**